

○辺野古沿岸案の撤回と普天間基地の即時閉鎖を

日米両政府は、沖縄県名護市・辺野古崎＝沿岸に新しい米軍基地をつくらうとしています。理由は普天間基地を返還するのに移転先が必要だから、と。宜野湾市のど真ん中にある、「世界一危険な普天間基地」(ラムズフェルド国防長官が驚いた)は、県内移設ではなく即時閉鎖して米国に持っていくべきです。



辺野古沿岸案の実態

<国土地理院&防衛庁作成マップ改変(土田武信氏提供)>

辺野古沖に新基地建設の計画が浮上して10年もの間、辺野古のおじい、おばあをはじめ、たくさんの人々が、座り込みなどの粘り強い阻止行動を続けました。沖縄の米軍基地から米軍機が飛び立ち、イラクの子どもたちを殺します。戦争に加担してはならないという、人々の固い信念は、昨秋、辺野古「沖」案の撤回を勝ち取りました。ところがその後出された計画はなんと辺野古「崎＝沿岸」案でした。

○基地予定地内に埋蔵遺跡文化財 文化財の破壊ではなく保護のための調査を！

辺野古崎にはすでに米軍基地・キャンプシュワブがあり、そこには、埋蔵遺跡文化財が、少なくとも4箇所は確認されています。9月14、15日、さらに25日、那覇防衛施設局は名護市教委に調査を指示し、遺跡保護のための公開調査を求める市民の要求を無視して、機動隊を導入して強行し、平良夏芽さんを不当にも逮捕しました。警察には全国から抗議の声が届けられ、彼はハンストをして抗議し、27日午後、釈放されました。

当初の辺野古「沖」案は、住民の反対と自然保護を理由に撤回されました。今度の辺野古「崎＝沿岸」案は、住民の反対・自然保護に加えて**貴重な文化財の保護が切実な課題**です。

日米両政府は基地建設を断念すべきです。

○嘉手納基地への迎撃ミサイル・パトリオット配備強行



自治体の首長のほとんどが反対を表明する中、座り込みで搬入を阻止していた市民を、機動隊を導入して排除してミサイルを搬入したことへの怒りが高まっています。

「だまし討ち！」
「誰を守るんだ！」

10月21日、ミサイルの配備に反対する県民大会・デモには1,200人が参加しました。

写真は午後3時から沖縄市野球場前広場(勝利の広場)で開かれた県民大会とデモ。嘉手納基地の第2ゲート周辺で。
(「平和市民連絡会」提供)

